

第 38 卷 1 号特集

「もう 3K とは言わせないーより安全に、より快適に、そして儲かる林業を目指して」への投稿募集

2022 年 4 月 3 日に開催された森林利用学会シンポジウムでは、「私の森林利用学ー振り返りと期待」と題して、ご退職会員の方々にご講演いただきました。これらの方々を含め近年退職された会員の方々には労働科学関連の研究者が多いこと、森林利用学会自体が残念ながらいまだに現場の方々にあまり知られていない部分はあるものの安全は現場とつながりやすいこと、各種の話題（研修制度や労働安全、林業大学校など）に関連して多様な投稿が期待できることから、2022 年 1 月に開催された学会常務理事会にて今年度の森林利用学会のテーマは労働災害・安全と関連するものとすることになりました。これを受け、2022 年 3 月に開催された学会常務理事会にてより具体的に検討した結果を参考に、来年の本誌第 1 号においては上記のテーマで特集号を組むことといたします。

皆様ご存じのように、林業関係の労働災害は以前より減少はしているものの他業種に比較して依然として高い水準で、近年では高止まりの傾向もうかがえます。深刻な労働災害の割合が高い伐木関係については、海外では伐木自体に生身の人間が関わらないという考え方のもとに急斜地対応の大型機械が開発されている現状もありますが、日本の状況ではチェーンソー伐木を皆無にはできないのではないかとの見方もあり、機械（ハード）に加え伐木方法や技術の継承・教育などソフトの面での研究開発や改善努力が続けられています。また機械化の進展や機械の大型化に伴い新たに発生するようになった種類の労働災害もある反面、従事者が増加傾向にある小規模林業における労働災害も見逃すことはできません。さらに、アシストスーツやドローンによる運搬など労働負荷軽減の技術も目立つようになりました。また新規就業者を増やすためには何といたっても儲かる林業を目指す必要があります。すなわち、きつい・汚い・危険のいわゆる 3K の払拭を本気で目指す必要があります。

そこで本特集では、「もう 3K とは言わせないーより安全に、より快適に、そして儲かる林業を目指して」としてこれに関連する研究を広く募集することとしました。こうした知見により、林業における労働環境の根本的な改善につながれば幸いです。

本特集は、2023 年 1 月末発行の森林利用学会誌第 38 卷 1 号への掲載を予定しており、論文（研究・技術）については **2022 年 8 月 31 日（水）までの**、その他の種別（総説、速報、研究・技術資料、抄録、雑録）については **2022 年 9 月 30 日（金）まで**原稿を募集いたします。会員の皆様からの多数のご投稿をお待ちしています。

森林利用学会誌編集委員会